

同時刻。

アリーベの北の森で、黒ずくめの人間が、横たわる邪獣の死体を発見した。

黒ずくめは腰を折り、邪獣の死因を確認する。

正確に、それも二度に渡って射抜かれた左目。

そして、微弱ながらも漂っている、確かな魔力の余韻。

黒ずくめは立ち上がり、呟く。

「近くにいる」

つづく